

元祖 石ノ毛書店 WEB版

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書日より

デリバリーサービス、また
や、し、ま、ず、で、よ、ろ、は、
ぜ、ん。

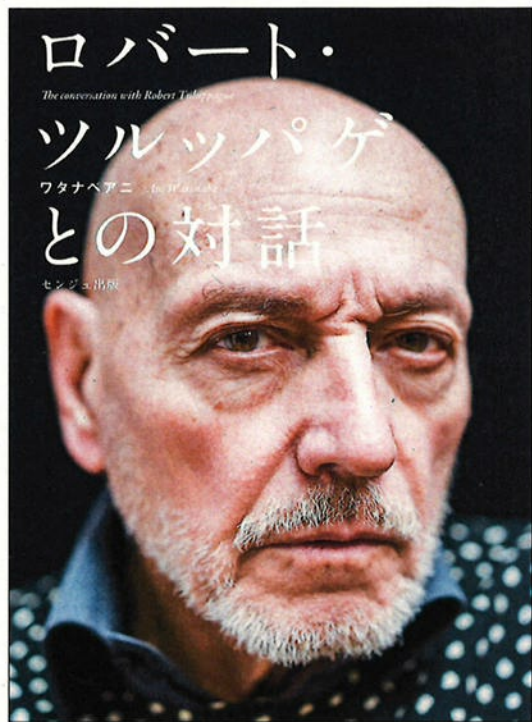
第10話 R02.05.15(金)
「哲学をつかって
世界をおもしろくする。」

★今回、紹介する本は、『ロバート・ツルツパゲとの対話』（著/ワタナベアニ、出版/センジュ出版）です。

なかなか衝撃的タイトルのお通り、中身も適度にふざけています。写真家・アートディレクターであるワタナベアニさんが、「哲学」をテーマに、幸せな生き方について語ったエッセイ本です。

ワタナベアニさんが、架空の哲学者ロバート・ツルツパゲさんとのエピソードなどを出しながら、日常のさまざまな出来事についてユーモアたっぷりに伝えてくれます。

世の中にあふれる常識をうのみにせず、「本当に幸せに人間が生きるにはどうしたらよいのか」考えることの大切さを教えてくれます。くどくない「親父ギャグ」的なフレーズが飛び出してくるのにクスツとしながらも、「哲学」について考えられる不思議な本です。



表紙の男の人がまじり。ただ、千八百円するくらいです。

いかに自分の存在には価値があるか (p.73)

何をすべきか、真剣に考えることは決して無意味じゃない。(p.225)

今までどこにも存在しなかった競技を自分のためだけに発明してもいい。(p.9)

本音にめりまへのものが正しいかよしてわかる自分の頭で考えたあや。

てっかぐ